

1

小児科に上手にかかるために

「小児科に上手にかかるには、どうしたら、いいの？」と悩ましく思っている保護者も多いかと思います。特に、はじめての赤ちゃんなら、なおさらです。肩の力を抜いて、深呼吸してゆったりとした気分で読んで下さい。特にはじめての子どもさんに対してお話ししますが、ご兄弟がおられる方にも参考になれば嬉しいです。では小児科に受診するだろうと思われるワクチン接種と診察受診についてお話しします。

初めての小児科デビューのタイミングは、多くは、予防接種（ワクチン）で小児科に行くことになるでしょう。この10数年で多くのワクチンが新しく加わりました。うれしいことにワクチンの開発により、重症感染症になってしまう子どもさんが減ってきました。とても良いことだと思います。今、子どもさんがまだワクチンを一つも接種していなくても病気にならないのは、半分は母体からの贈り物の抗体があることと、他の子どもさんたちが、ワクチン接種をしてくれているお陰で集団免疫効果があると言われています。一般には生後2か月から「ワクチンデビュー」になります。もし、予定日より早くに産まれても、誕生からの月齢でワクチンを進めていくのがよいでしょう。先程お話ししたように、ワクチンの

種類が大変多くなってきました。一つずつ接種していくのも方法ですが、日本をはじめ多くの諸外国は、同時接種を行なっています。同じ日に、2～4種類以上のワクチンを続けて接種します。今までの研究調査では、効果（効き目）は充分にあることがしられていて、また、副反応も単独接種と差が見られないと言われています。小児科医に相談してみましょう。また、ワクチン接種が予定されていて、風邪症状や下痢症状がある時には、早めに小児科を受診し、ワクチン接種が可能であるかを接種医療機関に確認するとよいでしょう。

次に、生後3か月を過ぎてくると、風邪症状や熱がでてくることがあります。まず、あわてずに赤ちゃんの様子を観察しましょう。顔色、機嫌、手足の動かし方、息づかい。子どもさんが、顔色が悪い、元気が無くてぐったりしていたら小児科を受診しましょう。いつから熱がでたのか、咳があるか、痰がでるのか、ゼイゼイいつているのか、鼻水がでるのか、おう吐や下痢があるのか、家族に風邪症状があるのか、などをお尋ねしますので、メモして受診しましょう。また、聞いておきたいことなども付け加えておくといいいでしょう。どうしても保護者が連れていけない時でも、メモがあると、赤ちゃんの状況がわかりやすいです。また、咳の状態や皮膚の気になるところは、今は簡単に画像や動画がとれますので、持ってきてもらおうと、診断や治療にとっても有益なので是非、願

いします。そして、今回受診した時にタイミングがちょうどよかったのか？診断は？そして治療を受けたら改善していったのかを覚えておくといいでしょう。時間外に急患センターに受診したほうがいいのかという目安になります。夜間や休日のときによく、子どもさんは具合が悪くなることがあります。私たちが、何十年も前から「熊本方式」といって開業医と大学小児科医、そして二次病院小児科勤務医とで時間外の小児対応を行ってきました。重症な疾患であるにもかかわらず、時間外に受診出来ずに、治療が遅れることがないように取り組んでいます。気になれば、いつでも利用していただいて構いませんが、受診したら、子どもさんの病気についてよく理解して、次回も同じ様に救急受診したほうがいいのか、翌日まで待って受診してよかったのかを、毎回考えながら、対応をお願いします。「熱がでた、元気だけど、念のために受診しました」はあまりいい対応とはいえません。また、#8000(子ども医療電話相談)などを利用することも可能です。はじめての熱に子どもさんを、心配するのは当たり前ですが、どんどん対応方法、ホームケアを覚えていくことをお勧めします。



一口メモ

でべそ

お腹の壁の弱い部分である臍から、腸が腹膜と皮膚をかぶって飛び出てくるのが、「でべそ」すなわち臍ヘルニアです。美容的な問題が一番ですが、まれに脱出した腸が戻らなくなることもあり注意が必要です。何もしなくても、多くが1歳までに自然に治りますが、乳児期早期の臍ヘルニア圧迫療法が有効であるという意見があります。臍ヘルニアに気づいたら、まず、かかりつけの小児科医に御相談下さい。また、2歳過ぎても臍ヘルニアが大きく出て、美容的に気になるようでしたら、短期入院の手術で治すことができますので、小児外科医にも御相談下さい。